

防災研究フォーラム第7回シンポジウム「アジア型巨大災害に挑む」

開催報告

防災研究フォーラムの主催、文部科学省の後援により、3月7日（土）に、防災研究フォーラム第7回シンポジウム「アジア型巨大災害に挑む」が、京都大学宇治キャンパス木質ホールにて開催された。

まず、午前は、防災研究フォーラム代表の石原京都大学防災研究所長（写真1）および研究開発局地震・防災研究課の渡邊防災科学技術推進室長（写真2）の挨拶に引き続き、第1部として、「アジアでの巨大災害調査報告」というテーマで、2007年サイクロン・シドルによるバングラデシュでの高潮水害、2008年サイクロン・ナルギスによるミャンマーでの高潮水害、2008年中国四川地震と地震災害に関して6本の講演が行われた。午後からは、研究開発局地震防災研究課 竹上係長（写真3）による特別講演「地震調査研究推進本部が目指すこれからの10年 ～『新たな地震調査研究の推進について』の策定～」に引き続き、第2部では、「日本での最近の災害調査報告」というテーマで、2008年岩手・宮城内陸地震災害と2008年神戸市都賀川豪雨災害について5本の講演が行われた。さらに、第3部では、「アジア型巨大災害の変貌」というテーマで、河田京大防災研究所教授の基調講演（写真4）が行われ、引き続き、地震・津波災害、火山災害、風水害、感染症、防災教育などに関する5本の講演が行われた。

今回のシンポジウムには、当初の参加申込み者数を2割ほど上回る105名の参加者が来場し、第1線の研究者および行政官の講演を熱心に聴き入るとともに活発な質疑応答が行われ、貴重な情報・意見交換の場となった（写真5）。開会の挨拶の中で渡邊室長より、「防災に係る多くの関係者間の交流の場としてこのようなフォーラムは重要であり、今後も継続的に活動していただきたい」旨発言があった。

なお、本シンポジウムの前日には、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにおいて、水理実験施設の見学会および自然災害体験学習会が開催された（写真6）。



写真1 開会挨拶（石原代表）



写真2 開会挨拶（渡邊室長）



写真3 特別講演（竹上係長）



写真4 講演後に参加者の質問に答える河田京大防災研究所教授



写真5 満員となった講演会場



写真6 自然災害体験会の様子（水の流れ込む地下階段からの避難体験）